

■科目名			
知的障害児の心理と病理 Psychology and Pathology of students with intellectual Disabilities			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	専修専門科目	特別支援教育	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	4期		後
■担当教員			
肥後 祥治			
■代表教員名及び連絡先等			
099-285-7767 higoshi@edu.kagoshima-u.ac.jp			
■オフィスアワー			
水曜日、午後16時～17時			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
本授業は、知的障害に関連する障害の臨床像を把握し、それらと関係の深い脳の構造と機能、知的障害との関連のある生物学的基盤について把握した後、発達概念および理論と定型発達の状態像理解し、知的障害の心理学的発達の問題点を理解する。また、知的障害の心理的な評価として重要となる各種心理テスト等についてその概要を学ぶ。 授業開始当初は初回の対面授業と14回のリアルタイム配信による遠隔授業によって行う。としていたが、クラスサイズと授業を実施する教室の人数制限から、対面授業が可能であることが分かったので、すべての授業を対面授業の形態でおこなう。			
■授業の到達目標及びテーマ			
1. 知的障害に関連する障害の臨床像の概要を説明することができる。 2. 脳の構造および知的障害の生物学的基盤の概要について説明することができる。 3. 発達概念と理論の概要を説明できる。 4. 子供の認知・言語の定型発達の概要を説明できる。 5. 発達評価の基本的考え方を説明し、具体的検査方法を上げることができる。			
■授業計画			
本授業は、毎回対面形式で行う予定であるが、状況によっては、遠隔授業への変更も想定している。授業形態を変更する際は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 1. オリエンテーション/映像資料の視聴 2. 障害の臨床像と発達障害・知的障害の概念 3. 知的障害の定義の変遷 4. 知能構造論 5. 知的のアセスメント 6. 発達障害のアセスメント 7. 脳の構造と機能1：中枢神経系 8. 脳の構造と機能2：神経繊維と情報の伝達 9. 知的障害に関与する生物学的基盤 10. 知的障害に関与する原因疾患 11. 発達の理論 12. 定型発達の発達段階1：幼児期・児童期 13. 定型発達の発達段階2：青年期・発達課題 14. 子どもの発達の概要を知る 15. 総括討議 と確認試験(11～14講)			
■授業外学習（予習・復習）			
本授業は、知的障害者の心理学的・病理学的な理解に必要な基本的な知識と概念の習得を目指しており、比較的広範囲で、大量の知識の習得を目指す。ほとんどの内容がこれまで触れたことのないものであるため、授業で使用するwork bookでの復習を行う必要がある。また、内容のまとまりごとに小テストを行うので、それに向けた準備が求められる。			
■受講要件			

■成績の評価基準

授業期間中に4回の確認試験とレポート提出が課せられる。点数配分は、確認試験(90点)、レポート(10点)である。評価は、確認試験の合計点とレポート評価点の合計となる。また、欠席が4回になった時点で、評価を受ける権利を失う。

■教科書・参考書

知的障害児の心理・病理W o r k B o o k

■教師としての資質能力に関するチェック項目

9. 学習者の心理・発達に関する理解

【C学習者理解】子どもの発達や心理など、子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており、それらを生かして子どもの発達を分析することができる

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており、それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

アクティブ・ラーニング

振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中5回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

授業形態(対面・遠隔)については、コロナウイルス感染症の影響、その他理由にういて変更する場合がある。